

2026 年 3 月 発行

城坤コミュニティ ふれあい城坤 まちづくり計画

Development Plan of Jôkon Community

2024 年度～2028 年度



みらい

つむ

とも

あゆ

未来を紡ぎ 共に歩む

情報を発信する まちづくり

安全・安心に暮らせる まちづくり

あたたかい福祉の まちづくり

子どもの笑顔があふれる まちづくり

スポーツを通じた健康な まちづくり

文化の まちづくり

城坤コミュニティ（ふれあい城坤）

〒763-0051 香川県丸亀市今津町283

TEL:0877-23-8129

<https://jyokon.com/>

六郷の里

六郷の里は丸亀の 西に広がる村にして
臨める海はいや青く 流るる川はいや清し

四方を囲む山々は
天霧 五岳 象頭山 飯野山 城山 青野山
いずれもゆかり深き山

金倉 中津 塩屋 今津 津森 新田 六か村
山こそなけれ広々と 黄金のゆれる肥沃の地

弥生万葉の昔より 五穀みのりし古き里
伊予みち道中ひざくりげ 白い帆眺む 万象園

瀬戸に開ける塩屋浜 うしおの香る塩の里
家の軒下 うちわゆれ 法然上人 ゆかりの地

つどいにぎわう八日市 川あと開きし町新田
五色花かご山と積み 童子集い 道をきく



はじめに

城坤コミュニティ・ふれあい城坤の活動に対し、日頃より多大なるご理解とご協力をいただき、厚く御礼申し上げます。

私たちの城坤地区は、丸亀城の膝元として、古くから豊かな歴史と文化、そして人々の温かな交流が息づく素晴らしい地域です。この歴史あるまちを、より住みやすく、より輝かしいものとして次世代へ引き継いでいくことは、今を生きる私たちに課せられた大切な使命です。

しかしながら、昨今の私たちを取り巻く環境は、決して楽観視できるものではありません。全国各地で頻発する大規模な自然災害、とりわけ激甚化する風水害や、近い将来発生が危惧される南海トラフ巨大地震への備えは、もはや一刻の猶予も許されない喫緊の課題となっています。公的な支援（公助）には限界があり、災害が発生した瞬間に自分たちの命、そして隣人の命を救うのは、自分たち自身（自助）と、地域での助け合い（共助）に他なりません。

この度策定いたしました「まちづくり計画」において、私たちが最も重視したのは「防災力の強化」と「互助のネットワーク作り」です。災害時に一人も取り残さないためには、日頃からの「顔の見える関係性」が必要です。日常的な挨拶やふれあい、地域行事への参加といった小さな積み重ねこそが、いざという時に機能する最強の防災インフラとなります。「ふれあい城坤」という名称には、単なる交流を超えて、困難な時こそ手を取り合える強固な絆を築きたいという願いが込められています。

本計画は、ワークショップやアンケートを通じていただいた住民の皆様の切実な声、そして城坤の未来に対する熱い想いを形にしたものです。これは単なる文書ではなく、私たち一人ひとりが一歩踏み出し、具体的な行動へと移すための「未来への羅針盤」です。

「城坤に住んでいて本当によかった」「このまちは安全で温かい」と、子どもたちが胸を張って言える未来を、皆様と共に創り上げていきたいと切に願っております。本計画の推進にあたり、今後ともより一層のご支援、ご参画を心よりお願い申し上げます、発刊の挨拶とさせていただきます。

目次

序章	協働について	1
第1章	城坤地区の現状	3
	1. 沿革	4
	2. 城坤地区の人口動態と地域開発	6
	3. 災害への備え	9
	4. 位置および区域	10
	5. ふれあい城坤の組織図	11
	6. 自治会について	12
	7. コミュニティセンターの活用	14
	8. 重層的支援体制とは？	14
第2章	まちづくり計画	15
	1. まちづくりアンケートから見える ふれあい城坤	16
	2. テーマ別の具体的な取り組み	18
資料編		
	(城坤地区の概要)	
	1. 自然と歴史	28
	2. 近代産業の発展と現況	28
	3. スポーツ施設の整備	30
	4. 公共施設	31
	5. 神社・仏閣	32
	6. 文化遺産	34
	(委員一覧)	38

序章 協働について

- 共同 複数の人や団体が同じ目的のために一緒に事を行うこと
- 協同 互いに協力し合うこと
- 協働 同じ目的のために、対等の立場で協力して共に働くこと

まちづくりの基本理念

歴史に感謝し、未来を紡ぎ、共に歩む。
豊かな心で、住みよい六郷の里（城坤地区）をめざして。

北エリアの眺望



近年、城坤地区を取り巻く社会情勢は、急速に変化しています。少子高齢化、核家族化、単身高齢者世帯の増加といった課題に加え、情報化の進展や価値観の多様化により、地域コミュニティのあり方も変化しています。また、全国的な傾向と同様に、城坤地区においても自治会加入率の低下や地域活動への参加者減少が見られ、地域連帯意識の希薄化が懸念されます。

さらに、近年では、気候変動による自然災害の激甚化や、感染症の流行など、新たなリスクも顕在化しています。これらの課題に対応し、持続可能で誰もが安心して暮らせる地域社会を構築するためには、従来の枠組みにとらわれない、新たな視点に基づいたまちづくりが求められます。

本計画は、このような状況を踏まえ、住民一人ひとりのニーズに応じた福祉、環境、防犯防災、教育などの課題を包括的に捉え、地域資源を最大限に活用することで、城坤地区の個性を活かした「豊かで持続可能な、誰もが暮らしやすい」地域を実現することを目的とします。

本計画は、城坤地区におけるまちづくりの長期的な方向性を示す羅針盤となるものです。上位計画である丸亀市総合計画や関連計画との整合性を図りつつ、地域住民の主体的な参画と協働に基づき、具体的な事業計画へと展開していくための指針となります。

本計画の計画期間は、社会情勢の変化や地域のニーズに柔軟に対応するため、概ね5年を目途とし、定期的な見直しを行うこととします。また、計画の推進にあたっては、PDCA サイクル（計画、実行、評価、改善）を重視し、効果的かつ効率的な事業の推進を図ります。

城坤コミュニティのまちづくり計画の5カ年計画のビジョン



住民一人ひとりが誇りを持ち、安心して暮らせる地域を目指します。



地域の豊かさ・生態系を持続可能な形で守ります。



革新的なアイデアと技術を取り入れて、より良い暮らしを目指します。



地域の絆を深め、共に助け合い、夢や希望を育む場として、輝かしい未来へと歩みます。

第1章

城坤地区の現状

南エリアの眺望



「ふれあい城坤地区・六郷の里」は、丸亀旧城下町の西に広がる静かな美しい田園地帯で、南には国道 11 号線が走り、西は多度津町に接し、北は瀬戸内海に臨んでいます。明治 23 年に津森村、今津村、新田村、塩屋村、下金倉村（中津町）、上金倉村（金倉町）の六か村が合併し、六郷村となった歴史に由来し、大正 6 年に丸亀市に合併して今日に至っています。

この地域は、金倉川や西汐入川、溜池と田園風景、中津海岸といった豊かな自然に恵まれています。地域の西部には、南北に貫通する金倉川の清い流れが、中央部には西汐入川が先代池の西側から、北に向かって大きく蛇行して海に注いでいます。江戸時代の川口は、丸亀湊（みなと）といわれ、福島や新堀の湍雨があって、こんぴら参りの客で賑わったところです。地域の南の方には、江戸時代の初めに築造されたといわれる先代池や平池、新池、辺池（へいけ）が東西に並び、中央部には天満池と瓢（ひさご）池があり、灌漑用水として豊富な水を蓄えてきました。

同時に、金倉町中ノ池の弥生前期遺跡、津森町位遺跡、法然上人ゆかりの権堀など、歴史と文化の香りを今に伝える貴重な遺産も数多く残されています。最近の金倉町中の池の弥生前期の遺跡や津森町位（くらい）遺跡などの発掘で、この地域は歴史以前から開発されていたことが分かってきました。万葉の歌人柿本人麻呂が立ち寄った中ノ水門（みなと）、法然上人（円光大師）が上陸した塩屋浜、戦国の武将中津将監（しょうげん）為忠の居城跡、京極家ゆかりの中津万象園、塩屋塩田の開発と塩屋御坊（塩屋別院）など、史跡名勝にも富んでいます。



城坤地区には、天満天神社、八十主（やそすか）神社、津森天神社、中津八幡神社、西本願寺塩屋別院などの歴史的建造物が多くあり、丸亀市総合運動公園（香川県立丸亀競技場、丸亀市民球場など）のスポーツ施設も充実しています。香川丸亀国際ハーフマラソンは世界的な定例イベントとなり大勢の参加者で賑わっています。

近代以降、塩田跡地や埋立地への工場誘致、道路網の整備、郊外型商業施設の進出などにより、生活利便性が向上し、住宅地としての発展を遂げてきました。海岸部には広大な埋立地に多くの企業が進出しています。今津、津森地区は、これまでの田園地帯が商業地帯や住宅地帯に様変わりしています。

このような恵まれた環境の中で、地域住民は世代を超えて協力し合い、助け合いながら生活しています。高齢者支援、子育て支援、防災対策など、地域交流を通じた取り組みを積極的に行い、安全で安心な地域づくりを推進しています。

「ふれあい城坤」は平成 6 年に結成され、「城坤地区住民の自主性と相互信頼に基づく生活共同体として、快適で安全な生活環境、健康で文化的な生活を目指し、心ふれあう住みよいまちづくりを推進する」ことを目的としています。

平成 22 年に策定された「六郷の里まちづくり計画」から 15 年が経過し、その間に全国各地では大規模な自然災害もありました。城坤校区を取り巻く環境も、県道丸亀多度津線の開通、市営野球場の開設、丸亀警察署の移転、田園地域の住宅地化など、大きく変化しています。また、少子高齢化、核家族化、単身高齢者世帯の増加、価値観の多様化、自治会加入率の低下、地域連帯意識の希薄化といった課題も深刻化しています。

こうした状況を踏まえ、長年の懸案であった城坤コミュニティセンターの改築が平成 29 年 9 月に着手され、平成 30 年 12 月に完成しました。従来の約 2 倍の面積となった同センターは、地域活動の中核施設として、さらなる機能充実が期待されています。

現在は、田村町北部を含めた人口約 14,000 人、約 6,500 世帯の地域です。「ふれあい城坤」は、令和の新時代に向けた新たな指針として、「ふれあい城坤 まちづくり計画」を策定し、持続可能で誰もが暮らしやすい地域社会を目指します。



東エリアの眺望



丸亀市全体が人口減少傾向にある中、城坤地区では昭和 23 年の 9,551 人から令和 5 年の 14,209 人へと人口が増加しています。

この要因として、平成 22 年の都市計画見直しによる今津町、金倉町、新田町の市街化区域の拡大、県道丸亀多度津線の開通、大規模商業施設「ゆめタウン」の立地など、地域開発が活発に進められたことが挙げられます。これらの開発により、今津町、金倉町、新田町の市街化区域を中心に宅地開発が急速に進み、若年層を中心とした流入人口が増加しました。

しかし、地域開発は利便性向上や人口増加をもたらす一方で、課題も生み出しています。田園風景の変化や交通量の増加、地域商業環境の変化、耕作放棄地の住宅開発など、自然環境、交通安全、地域経済に影響を与えています。今後のまちづくりにおいては、これらの課題に適切に対応し、持続可能で誰もが暮らしやすい地域社会の実現を目指す必要があります。



西エリアの眺望



城坤地区と丸亀市の人口推移

区分	平成21年	平成26年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年
丸亀市	110,486	110,344	109,139	109,378	108,787	108,143	107,845
城坤地区	13,773	13,444	13,609	13,945	13,870	13,996	14,209

城坤地区は人々が集まる魅力に満ちており、その結果、人口が増加しています。

城坤地区の性別別人口・世帯数の推移

性別	平成21年	平成26年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年
男性	6,613	6,638	6,691	6,885	6,829	6,961	7,134
女性	7,160	6,806	6,918	7,060	7,041	7,035	7,075
計	13,773	13,444	13,609	13,945	13,870	13,996	14,209
世帯数	5,623	5,767	6,001	6,221	6,170	6,337	6,588

城坤地区の世代別人口比率

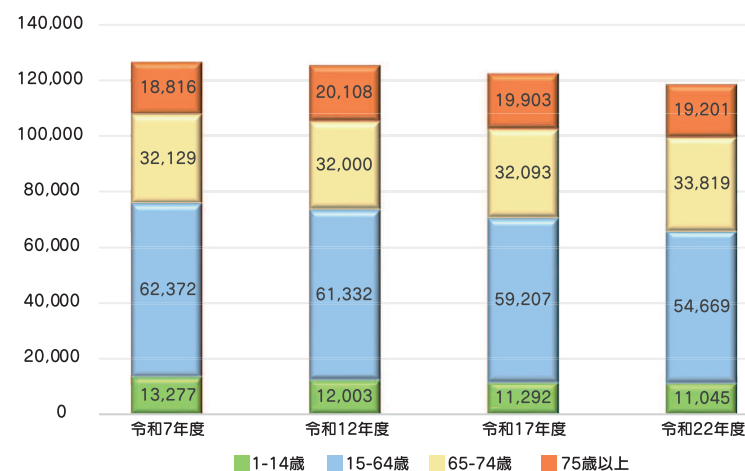
20歳未満	20・30代	40・50代	60代	70代	80代	90代	100歳以上
18.2%	24.2%	25.7%	9.9%	12.7%	6.9%	2.3%	0.1%

地区名	平成21年	平成26年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年
今津・天満	3,089	3,247	2,974	3,528	3,472	3,470	3,508
津森	3,449	3,428	3,374	3,529	3,610	3,674	3,848
金倉	1,582	1,582	1,741	1,702	1,666	1,677	1,695
中津	1,869	1,762	1,715	1,679	1,699	1,680	1,661
新田・田村	493	414	565	651	646	637	635
塩屋・前塩屋	3,291	3,011	3,240	2,856	2,777	2,858	2,862
城坤地区計	13,773	13,444	13,609	13,945	13,870	13,996	14,209
丸亀市	110,486	110,344	109,139	109,378	108,787	108,143	107,845

03 今後の人口推計と特徴

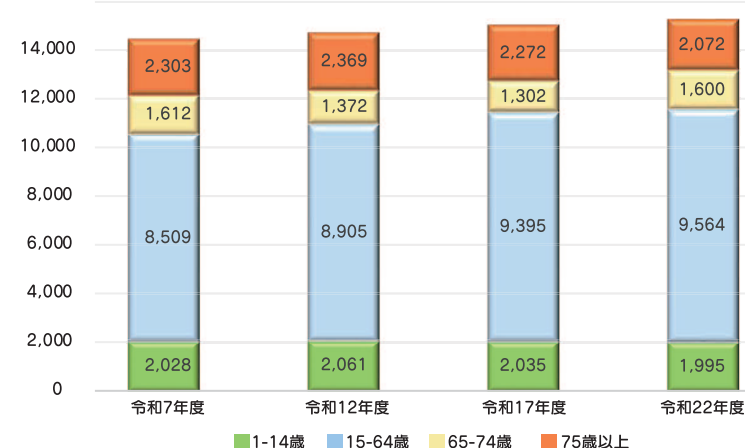
丸亀市の人口推計について

丸亀市の年齢 4 区分の人口は以下の通りです。15-64 歳の生産年齢人口の割合は令和 7 年度の 49.3% から令和 22 年度の 46.0% まで減少していく見込みとなっています。一方で、75 歳以上の後期高齢者人口の割合は令和 7 年度の 14.9% から令和 22 年度の 16.2% まで増加していく見込みです。



城坤地区の人口推計について

城坤地区の年齢 4 区分の人口は以下の通りです。全市に比べて 15-64 歳の割合が高く、16.8 ポイントの差となっています。一方で 65-74 歳の割合は低く、18.0 ポイントの差となっています。また、75 歳以上については、同程度となっています。



多世代交流の促進とコミュニティ活動の活性化

- 多世代交流の場づくり 例 世代間交流を目的としたワークショップなどを開催
- コミュニティ活動の多様化 例 子育て支援、高齢者支援、防災活動、趣味のサークル活動など
- IT 技術の活用 例 オンラインを活用した情報共有や交流を促進

高齢者の社会参加と地域での支え合い

- 高齢者の社会参加の促進 例 地域のボランティア活動や、高齢者の知識や経験を活かせる活動を支援
- 地域包括ケアシステムの強化 例 見守り活動や、高齢者の生活支援を行うボランティアグループを育成

若年層のコミュニティ活動への参加促進

- 子育て世代への支援 例 子育て世代への支援：例、地域の交流スペースを活用した子育てサロンや、子ども向けのイベントを開催
- 若年層が参加しやすいコミュニティ活動の創出 例 若い世代は、従来の自治会活動への関心が低い傾向があるため、趣味や関心をベースにした交流イベントを企画。自治会加入のメリットを感じるような、情報発信も必要。

これらの取り組みを通じて、城坤地区のコミュニティ活動が活性化し、地域住民が安心して暮らせる地域社会の実現につながることが期待されます。

03 災害への備え（自主防災会の発足）

01 城坤地区の特性（地形的な特徴及び災害に関する情報）

城坤地区は瀬戸内海に面し、金倉川や西汐入川の最下流に位置する低平地です。

近年、宅地化が急速に進み、保水機能を担っていた田園が減少したため、雨水が短時間で河川に流れ込みやすくなっています。特に、集中豪雨時には河川の排水機能が低下し、浸水被害が頻発しています。過去には、平成 16 年の台風 22 号、平成 29 年の台風 18 号、平成 30 年の台風 24 号などにより、浸水被害が発生しています。また、南海トラフ地震の発生確率が高まっており、地震・津波による甚大な被害も懸念されます。海岸線に位置する城坤地区では、津波による浸水被害も想定され、早急な対策が必要です。さらに、土器川上流域での氾濫や、満濃池の堤防決壊による浸水被害も想定されるため、十分な注意が必要です。現在、丸亀市都市整備部下水道課が、浸水対策の一環として、西汐入川に連結する幹線水路箇所にポンプ施設を設置しています。

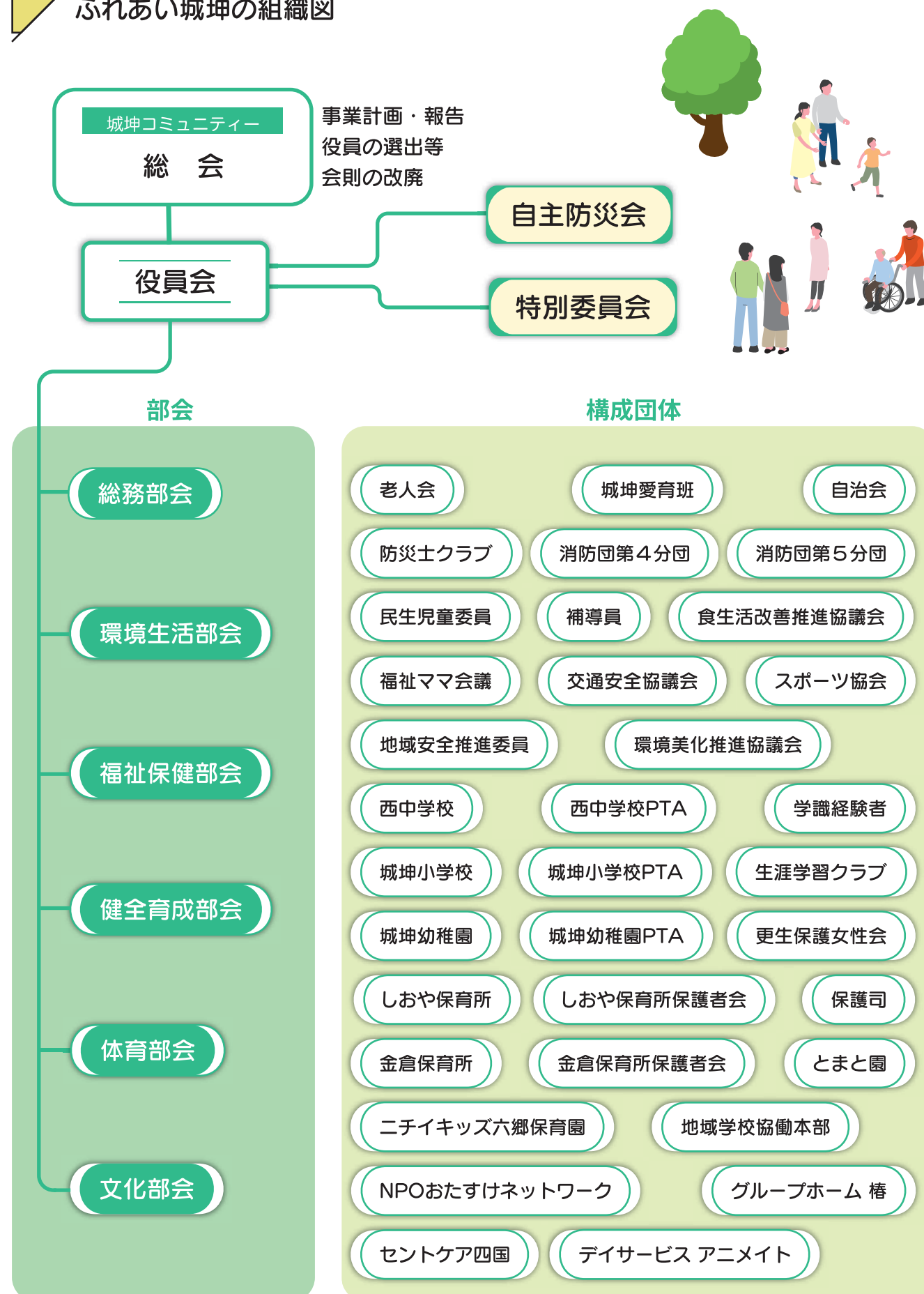
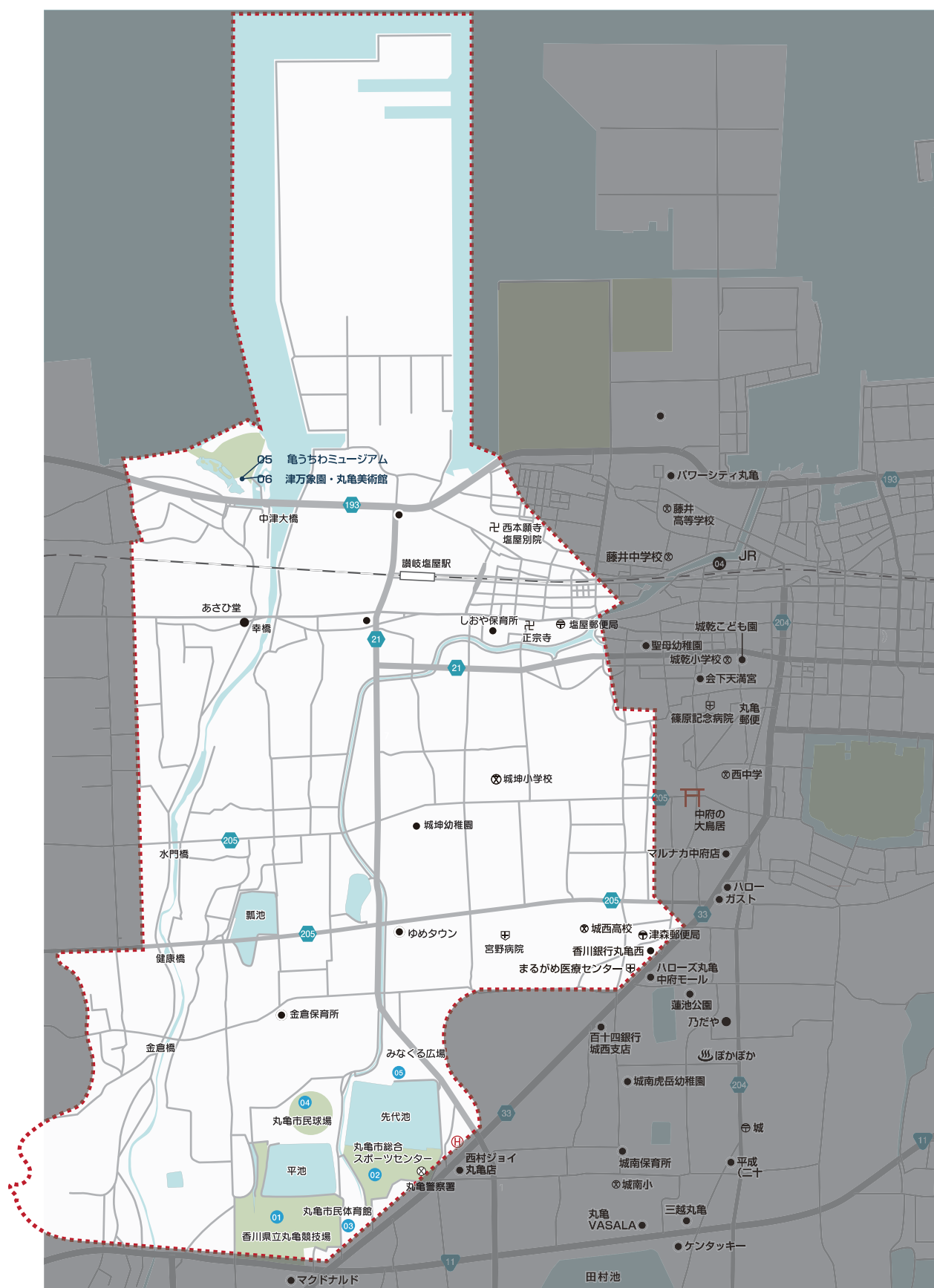
02 地震やその他災害に対する防災・減災への取り組み

地震やその他の災害から人命と地域を守るため、各自治会の自主防災組織と連携し、災害時の防災体制の充実強化を図ることを目的として、令和元年 4 月 1 日にふれあい城坤自主防災会を設立しました。防災拠点となる城坤コミュニティセンターを中心に、指定緊急避難場所への避難を想定した避難所開設訓練、防災訓練（担架搬送訓練等）、炊き出し訓練など、様々な訓練を実施しています。

令和 6 年度は、地区内を 6 ブロックに分け、地震・津波及び洪水が発生した場合を想定した災害図上訓練を実施し、浸水状況、避難時集合場所、避難経路、避難場所などを地図上に記入しました。令和 7 年度は、この地図を基に、自治会ごとに避難時集合場所から避難経路を通して避難場所まで向かう避難訓練を実施する計画です。

特に、南海トラフ巨大地震発生時には、迅速な対応が求められます。そのため、避難訓練や防災実技訓練を継続的に実施し、「自分の命は自分で守る」「自分たちの地区は自分たちで守る」という意識のもと、地域住民が協力し、災害に強いまちづくりを目指します。





城坤地区の自治会加入率は平成21年の58.0%から年々減少し、令和5年は39.3%となっている。

城坤地区の自治会加入世帯数の推移

自治会	平成21年	平成26年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年
加入世帯数	3,262	2,971	2,822	2,772	2,699	2,628	2,586
加入率	58.0%	51.5%	47.0%	44.5%	43.7%	41.5%	39.3%

丸亀市と連携しながら、自治会加入率の向上を図ります。

自治会アンケートより

1 法人格取得と自治会財産

法人格を持たない自治会のうち5自治会は、今後法人格取得を予定しているが、自治会として財産（自治会集会場）を所有している割合からすると、法人格を持っていない自治会の割合が多いことがうかがえる。

3 自治会加入の現状と課題

「加入金なし」が半数以上を占める反面、「加入金あり」の中には300,000円以上という自治会もあることがわかる。一方、準会員形式で所有財産に対する負担を免除し、加入を促進している自治会もある。所有財産がある場合でも負担金を納めることにより加入が可能な自治会が多いが、加入負担金が自治会への加入を阻害している部分があると思われる。負担を免除した準会員形式での加入など多様な加入方法により対応している状況がうかがえる。

連合自治会とは

「近隣の自治会・町内会が手を取り合い、一つの大きな地区（城坤地区など）単位で活動する組織」のことです。単一の自治会では解決が難しい課題に取り組み、地域全体の住みやすさを向上させるための「ネットワークの要」としての役割を担っています。

2 自治会集会場の現状と課題

約半数の自治会が、自治会集会場を所有している。今後、何らかの予定ありと回答した自治会のうち、改築・修繕の予定をしているところが60%近くあり、施設の老朽化がうかがわれる。今後新たに建設を計画している自治会は4自治会あった。

4 自治会役員の現状と課題

自治会長が1年ごとに持ちまわる自治会が6割以上であり、立候補や推薦等、積極的に自治会活動にかかわっている割合は2割以下になっている。

5 連合自治会の役割について

地区コミュニティ組織との役割分担や連携など、防災、防犯等地区全体で進め事柄について単位自治会を取りまとめ、地域の意見を集約し市への要望を行うなど、市との連絡調整を行う組織として重要と捉えていることがわかる。

現状の課題

1 自治会加入率の低下

- 若い世代の流入による人口増加にもかかわらず、自治会加入率が減少傾向にある。
- 独居高齢者の増加や、高齢化に伴う退会も、加入率低下に影響を与えている。

2 世代間の意識のギャップ

- 若い世代は、従来の自治会活動への関心が低い傾向がある。
- 地域のつながりよりも、個人のプライバシーや利便性を重視する傾向が見られる。

3 自治会活動の多様性の不足

- 従来の自治会活動が、現代の多様なニーズに対応できていない可能性がある。
- 特に、若い世代や単身世帯にとって魅力的な活動が不足している可能性がある。

4 高齢化による担い手不足

- 自治会活動の担い手の高齢化が進み、活動の維持が困難になりつつある。

自治会一覧

今津町・天満町

・今津東
・天満
・西今津
・今津南部
・今津団地
・今津北部
・今津町城坤ニュータウン
・新今津
・今津経田
・今治造船今津社宅
・皿池
・今津29
・シャインガーデン今津
・今津4丁目
・今津33

中津町

・中津町東部
・中津中部
・中津町西部
・中津町久国
・中津受所
・中津町中新
・中津北部
・サーパス中津

津森町

・津森南部
・津森町
・津森町団地
・位
・宮浦
・宮浦住宅
・津森菰池
・津森さつき
・杉の木団地
・菰池北
・津森つばき
・高丸
・津森プリン
・あらた
・スマートハウジング丸亀津森

新田町・田村町

・市営住宅
・新田青葉団地
・丸亀第二団地
・美里団地
・田村町道西
・橋本
・長池
・クリスタルガーデン丸亀新田
・新田タウン
・新田町長池道下
・新田町77

金倉町

・金倉町
・荒
・金倉町下新田
・上新田
・金倉団地
・金倉川団地
・金倉町下新田東団地
・きさらぎ
・クリスタルガーデン丸亀西

塩屋町・前塩屋町

・塩屋天神
・塩屋東部
・塩屋西部
・塩屋中部東
・塩屋中部西
・前塩屋東部
・外浜中部
・外浜西部
・外浜団地1棟
・外浜団地2棟
・塩屋町五丁目東部
・塩屋町外浜北部
・塩屋町平成

城坤コミュニティセンターは、地域の皆様の交流拠点として、様々な活動を支援し、活気あふれる地域づくりを目指しています。既存の活動はもちろんのこと、新たな活動の創出を通じて、誰もが気軽に集い、交流できる開かれた場所として、更なる活用を推進していきます。



これまでの福祉は「高齢者は高齢者窓口」「こどもはこども窓口」と縦割りでした。しかし、今の課題はそれらが絡み合っています。重層的支援は、「属性を問わない相談窓口」「参加支援（居場所づくり）」「地域づくり」の3つを一体で行うものです。

地域コミュニティ（ふれあい城坤）の役割

行政がどれだけ制度を整えても、家の中に隠れた困りごとをすべてを見つけることはできません。

そこで、「ふれあい城坤」のような地域組織が「センサー」となり「受け皿」となる意味は大きいのです。

①「気づき」のセンサー役（アウトリーチ）

役割：普段の「ふれあい」の中で、「最近あの人を見かけない」「ゴミ出しができていない」という異変にいち早く気づくこと。

近隣の見守り活動を通じて、孤立を防ぐ『気づきのネットワーク』を強化します。

②「居場所」という受け皿（参加支援）

役割：相談窓口へ行くほどではないけれど、社会との接点が欲しいという人に、サロンや行事などの「出番」や「居場所」を提供すること。

多世代が自然に集える場を創出し、誰もが役割を持って共に生きる地域を目指します。

③「つなぎ」の役割

役割：地域で気づいた課題を、自分たちだけで抱え込まず、専門機関（地域包括支援センターや社協など）へスムーズにバトンタッチすること。

専門機関と連携し、制度の狭間にある課題を地域全体でフォローする体制を整えます。



全 体

- 今まで良かったことはそのままに、ちょっと変えた方が良いところは見直してみよう！
- 無理せず、みんなでがんばれる目標を立てたいな。
- 城坤ならではの、方策・地域の魅力・目玉となるものってなんだろう。
- みんなが暮らしやすい、コンパクトなまちっていいよね。
- みんなで意見を出し合って、まちづくりに反映させたいな。
- 「ふれあい城坤」のまちづくり、みんなが興味・関心をもつ工夫ができるといいな！
- みんなが「参加して良かった！」「楽しい！」「関わって嬉しい」と思えるまちづくりって素敵。
- 「六郷の里」ってちょっと広すぎるから、みんなで話やすい小さな区域で交流できたらいいな。
- 若い人も高齢の方も、気軽に話せる場所や雰囲気があると嬉しいな。
- イベントって休日が多いけど、平日に行事があるといいな。
- 城坤コミュニティセンターを日曜日にも使えるようにしてほしいな。
- 城坤コミュニティセンターまで遠くて行けない人もいるから、送迎バスとかがあると助かるな。
- 城坤コミュニティセンターが遠い方のために、近くの集会場で講座とか開いてほしいな。

イベント・行事

交流と参加の促進

- 皆が参加できる絆を深める行事・交流機会の増加
- 多くの人が参加できる工夫、特に働く世代や若い世代の参加促進
- 住民ニーズに沿ったイベント企画、ターゲットを明確化
- イベントスタッフに子育て世代を増やし、若い人の参加を促す
- 参加しやすい雰囲気づくり、新規参加者の疎外感解消
- 自主的な参加意識の醸成

イベント内容の充実

- 子どもたちが楽しめるイベント、地域学習と交流の機会
- 高齢者との交流イベント（六郷夢クラブなど）
- 郷土料理講習、市民講座、コンサート、リサイクルなどの開催
- 新コミュニティセンターでの運動器具充実、文化講座、趣味講座の充実
- 祭り（秋・春祭り含む）の魅力向上（出店、屋台など）
- 新旧住民のコミュニケーションを促進する祭り
- 生活を豊かにするカルチャー講座

その他

- 女性が活躍できるイベントの企画
- 新たな団体・サークル活動の促進

学 校

地域との連携強化

- 学校を通じた交流機会の増加
- 防災・消防・地域おこしにおける団地との連携
- ハザードマップのきめ細かなマップへの改良

学校周辺の安全対策

- 大雨・浸水対策（河川整備、水路の安全対策）

高齢者対策

高齢者の生活支援

- 高齢化社会へのきめ細かな対策推進、負担軽減
- 免許返納後の移動手段確保（コミュニティバス、福祉タクシーの充実）
- 買い物、通院の送迎・付き添いボランティアの設立
- 高齢者が歩いて行ける店舗、販売車の運行、コンビニの誘致
- 高齢者の孤立防止、利便性の高いまちづくり
- 家から出かけやすい環境・支援の充実

高齢者の居場所づくり

- 高齢者が集える公園、気軽に集まれる居場所（いきいきサロンなど）
- 一日中集まれる、安価な食事提供場所
- 地域住民による声かけ、交流イベントへの積極的な誘い
- 高齢者の生きがい創出、活動支援

高齢者の健康・福祉

- 認知症予防のための講習会、子育て支援への参加（学童保育）
- 子どもたちへの昔遊び伝承
- 一人暮らし対策（特別養護老人ホームの充実）
- 介護問題への対応

子育て支援

遊び場の充実

- 子どもが思い切り遊べる公園、球技ができる遊び場の整備
- 楽しい遊具のある公園、プレーリーダーがいるプレーパークの設置
- 児童館に代わる施設の設置

子育て支援の強化

- 不審者対策、子どもの見守り強化
- 未就学児童の親子が気軽に集まれる場所、情報提供
- 地域全体での子育て支援（高齢者による見守りなど）
- 子育てママの交流の場、ストレス解消機会の増加
- 放課後の塾・習い事の充実

生活環境

安全・安心なまちづくり

- 健康づくりウォーキングコースの整備
- 街路灯、防犯カメラの増設
- 空き家対策（治安、火災、衛生面）
- 不審者情報への対応、地域の見守り体制強化
- ゴミのない環境づくり、一斉清掃の実施
- ペットの糞害、野良猫対策
- 市道の雑草対策、美観向上

自然環境の保全

- 自然環境の保全、緑地増加
- 農業基盤の維持、休耕田活用
- 農地と住宅地の適切なゾーニング
- 河川・水路の清掃、整備（川遊びができる環境）
- 金倉川・西汐入川の浄化対策
- 金倉川、津森天神周辺への植栽（桜など）

地域文化

- 伝統行事の継承
- 歴史・文化資源を活用したイベント企画
- 中の池遺跡、万象園、金倉川などの魅力発信
- 遍路道の世界遺産登録、休憩施設整備

住民の皆様からいただいた貴重なご意見・ご要望に基づき、6つ（+2つ）のまちづくりテーマに沿って、各部会・委員会で基本方針を策定し、具体的な取り組み計画を策定します。

「情報を発信するまちづくり」をめざして

目標

地域情報の発信力を強化し、地域の情報基地となる。
 情報を通して繋がることで、住民の地域活動への参加意欲を高める。
 多様な世代が情報共有できる仕組みを構築する。

具体的な活動内容例

- 総務部会 ICTを活用した情報発信の強化
- 総務部会 ホームページ運営、SNS活用、LINE 公式アカウント活用
- 総務部会 地域情報の発信に特化した機関誌「ふれあい城坤」発行
- 総務部会 地域住民が主体的に情報発信できるような取り組み
- 総務部会 情報発信に関するアンケート調査の実施

想定される
 関係団体・機関や
 部会活動など

総務部会（情報発信活動・地域活動支援）
 各部会・構成団体
 クラブ活動 など

第151号 令和7年10月1日発行 発行所 ふれあい城坤

ふれあい城坤
 みんなの力で、愛の輪を

ホームページアドレス <https://www.jyokon.com>
 ふれあい城坤事務局 丸亀市今津町283番地 城坤コミュニティセンター内 ☎23-8129

城坤地区の人口
 9月1日現在 前号比
 世帯数 6,809世帯 (+4.1)
 人口 14,350人 (+6.6)
 男性 7,272人 (+6.2)
 女性 7,078人 (+4.4)

令和7年度 第33回
 ふれあい城坤
 秋まつり
 2025.10.26(日) 9:00~14:30
 みなくる広場
 (丸亀市総合運動公園)

となたさまも来場
 お待ちしております!!

★★★みなくる広場 運動場★★★
 おいしいがいっぱい! 飲食バザー各種
 歌やダンス、獅子舞など盛り沢山! ステージイベント!

★★★みなくる 屋根付き広場★★★
 健康測定・防災啓発コーナー・さまざまな体験 など
 カマタマレ讃岐もやってくる~

スポーツ大会・六光くじ抽選会もあります!

第152号 令和8年1月1日発行 発行所 ふれあい城坤

ふれあい城坤
 みんなの力で、愛の輪を

ホームページアドレス <https://www.jyokon.com>
 ふれあい城坤事務局 丸亀市今津町283番地 城坤コミュニティセンター内 ☎23-8129

城坤地区の人口
 12月1日現在 前号比
 世帯数 6,810世帯 (+1)
 人口 14,355人 (+5)
 男性 7,284人 (+1.2)
 女性 7,071人 (-7)

迎春
 旧年中のごまは、ご協力に感謝申し上げます。
 本年も地域の皆さまに親しまれるコミュニティセンター
 を目指してまいります。
 どうぞよろしくお願いいたします。

新年のごあいさつ
 ふれあい城坤
 会長 塩田 康広

新年あけましておめでとうございます。
 一年はあっという間で、今年もまた一月を
 迎えることとなりました。振り返れば、敬
 老会、雨の中の秋まつり、研修視察旅行
 など、思い出深い行事が数多くありました。
 それぞれが、人生の新しい一ページを形
 作ったことと思います。

さて今年、新しい時代にふさわしいコ
 ミュニティへと発展するため、ワークス
 するような取り組み、知恵とアイデアを出
 し合いながら計画していきます。

日常の活動では、民生委員をはじめ専門
 分野の皆さまのご活躍により、城坤地区の
 皆さまの生活が豊かで楽しいものとなるよ
 うを支援していただいています。また、地域
 コーディネーターの皆さまの取り組みや、
 おでかけ便を担ってくださっている皆さま
 のご尽力があります。さらに、防災・災害
 に強い地域づくりのため、自主防災会の皆
 さまにもご尽力いただいております。

前向きに、お互いの信頼関係を育みなが
 ら、城坤地区がより住みやすくなります
 よう、今年も頑張ります。

「安全・安心に暮らせるまちづくり」をめざして



目標

豊かな自然環境を育み、環境美化に努める。
 地域住民の防災・減災意識を高め、災害に強いまちづくりを推進する。
 防犯対策を強化し、安全な生活環境を確保する。

具体的な活動内容例

- 環境生活部会 環境美化活動
- 環境生活部会 緑のカーテンづくり
- 環境生活部会 地球温暖化対策「うどん県クールチョイス運動」への参加
- 環境生活部会 「リフレッシュ香の川」西塩入川の美化運動
- 自主防災会 地域内施設への訓練支援
- 自主防災会 地区防災計画作成支援
- 環境生活部会 防災知識の啓発活動
- 環境生活部会 学校と連携した防災教育の実施
- 環境生活部会 交通安全キャンペーン街頭指導
- 地域学校協働本部 地域の危険個所の把握と共有
- 環境生活部会 下校時における子ども見守りと青色バトロールカーの運行
- 環境生活部会 防災・防犯に関する情報提供
- 総務部会 ボランティアを推進する取り組み
- 総務部会 安全・安心に関するアンケート調査の実施



想定される
 関係団体・機関や
 部会活動など

環境生活部会
 自主防災会
 防災士クラブ
 地域学校協働本部
 香川県立丸亀城西高等学校
 城坤小学校
 丸亀警察署交通課
 総務部会 など



03 「あたたかい福祉のまちづくり」をめざして

目標

高齢者や障がい者が地域で安心して暮らせるまちづくり
地域住民の支え合いの輪を広げる。(福祉ボランティアの推進)
赤い羽根共同募金の街頭募金活動の推進
「健やかまるがめ 21」食育推進計画の普及
食生活改善と認知症予防

具体的な活動内容例

- 民生委員 一人暮らし高齢者の実態調査
- 福祉保健部会 一人暮らしの高齢者への「友愛訪問」
- 福祉保健部会 ふれあい広場に集まる親子の健やかな成長を応援
- 民生委員・福祉ママ いきいきサロン活動の支援
- 福祉ママ 寝たきり高齢者の実態調査
- 福祉ママ 障がい者福祉施設「とまと園」への作業奉仕活動
- 丸亀市社会福祉協議会 地域住民向けの福祉講座・研修会の開催
- 民生委員・福祉ママ 福祉推進委員 福祉ボランティアの推進
- 民生委員・福祉ママ 赤い羽根共同募金の街頭募金活動の実施
- 食生活改善推進協議会 食生活改善に関する講座・イベントの開催
- 食生活改善推進協議会 認知症予防に関する講座・イベントの開催
- 福祉保健部会 多世代の繋がりづくり愛育班ひろばの開催
- 総務部会 福祉に関するアンケート調査の実施

想定される 関係団体・機関や 部会活動など

福祉保健部会
民生委員・児童委員
福祉ママ
食生活改善推進協議会
城坤愛育班
丸亀市福祉課 福祉推進委員
丸亀市健康課
丸亀市社会福祉協議会
丸亀市地域包括支援センター
地域の福祉施設 など



04 「子どもの笑顔があふれるまちづくり」をめざして

目標

子育て世代が安心して子どもを産み育てられる環境を整備する。
子どもの自己肯定感を育み、地域社会全体で支え、共に成長できる
機会をつくる。
子どもや若者、シニアの方までが多様な交流や体験を通じて、社会
性や協調性を育む。

具体的な活動内容例

- 地域学校協働本部 「学校支援ボランティアふれあいろくこう」による活動
- 健全育成部会 子どもの地域活動への参加促進
(イベント企画・運営・ボランティアなど)
- 健全育成部会 子どもの体験活動の推進
(自然体験、文化体験、スポーツ体験など)
- 福祉保健部会 城坤愛育班 愛育班ひろばの開催
- 総務部会 香川県立丸亀城西高等学校との地域連携の強化
- 総務部会 子育てに関するアンケート調査の実施

想定される 関係団体・機関や 部会活動など

健全育成部会
福祉保健部会
総務部会
城坤幼稚園
金倉保育所
しおや保育所
城坤小学校
丸亀市立西中学校
香川県立丸亀城西高等学校
各保護者会や PTA
主任児童委員
地域学校協働本部 (地域ボランティア)
丸亀市ジュニアリーダークラブ (MJC)
丸亀市子ども会育成連絡協議会事務局 (まなび文化課内)



「スポーツを通じた健康なまちづくり」をめざして

目標

スポーツやレクリエーションを通し、相互に親睦を図る。
 明るい地域社会と温かい家庭づくりを構築する。
 地域住民が気軽にスポーツを楽しめる環境を整備する。
 スポーツを通じた健康増進を推進する。

具体的な活動内容例

- 体育部会 チャレンジデー
- 体育部会 地域交流ソフトボール大会
- 体育部会 地域交流ペタンク大会（屋内／屋外）
- 体育部会 地域交流ソフトバレーボール大会
- 体育部会 チャレンジウィーク
- 体育部会 バスハイキング
- 体育部会 ウォーキング大会
- 体育部会 丸亀市民体育祭への参加
- 体育部会 香川丸亀国際ハーフマラソン大会における交通警備
- 総務部会 スポーツ・健康に関するアンケート調査の実施

想定される
関係団体・機関や
部会活動など

体育部会
 スポーツ協会
 香川県立丸亀城西高等学校 など



バスウォーキング in 栗林公園



ソフトバレーボール大会上位入賞チーム



「文化のまちづくり」をめざして

目標

「地域いきいき講座」を通じて、身近な話題について学びを深めること、地域の季節の行事に関連した活動を通じて繋がりを深めること、レクリエーションを取り入れて多くの方が楽しめる活動を行う。

具体的な活動内容例

- 文化部会 生涯学習講座（地域いきいき講座など）の開催
- 文化部会 地域の季節行事に関連した活動
- 文化部会 レクリエーション
- 総務部会 文化に関するアンケート調査の実施

想定される
関係団体・機関や
部会活動など

文化部会
 図書館
 文化団体
 生涯学習団体 など



07 「地域住民との親睦と交流、連帯意識の高揚」をめざして

目標

子どもからお年寄りまで、地域に暮らす人が元気でいきいきと暮らせるよう、コミュニティ全体で取り組む行事を開催し、地域住民の親睦と交流、連帯意識の高揚を目指す。

具体的な活動内容例

- 各実行委員会** 地域活動支援（秋まつり・春まつりの年2回開催）
- 特別委員会** 夏休み子ども教室（ろくこう夢クラブ）の開催
- 特別委員会** 高齢者移動手段確保事業「おでかけ便」の推進
- 特別委員会** 敬老会の開催
- 地域学校協働本部** 「学校支援ボランティアふれあいろくこう」による活動
 - ・登下校時の見守り活動・新入生入学直後の給食支援
 - ・授業補助（ミシン、調理実習等）・本の読み聞かせ など
- 総務部会** 代議員親睦研修旅行の企画・実施
- 連合自治会** 自治会加入推進活動
- 総務部会** 地区全体のつながりづくり
- 総務部会** 人権啓発活動
- 総務部会** 丸亀城西高校 総合的な探求の時間 × 地域活動の発掘

想定される 関係団体・機関や 部会活動など

- | | |
|--------------|---------------|
| 総務部会、その他部会 | 老人会 |
| 各まつりの実行委員会 | 消防団 |
| 城坤校区地域学校協働本部 | 福祉ママ会議 |
| 民生委員・児童委員 | 食生活改善協議会 |
| 香川県立丸亀城西高等学校 | 連合自治会など構成団体 |
| 丸亀市立西中学校 | 各種クラブ・サークル |
| 城坤小学校・各PTA | 地域住民ボランティア など |



08 「地域の特性に根差した防災・減災」をめざして

防災訓練



目標

防災・減災意識の普及を図り、災害に対する備えを理解し行動できるようになる。

具体的な活動内容例

- 自主防災会** 避難場所や経路の確認・整備を行う
- 自主防災会** 住民が円滑に避難できるよう計画を策定
- 自主防災会** 避難所の運営など、災害発生時の支援体制を整備
- 自主防災会** 災害時における情報伝達の通信システムを整備し、迅速な情報共有を図る
- 自主防災会** 避難訓練への参加を促進し、コミュニティ全体で取り組む意識啓発
- 自主防災会** 地域特性に合わせた防災マップ、ハザードマップの作成・配布
- 自主防災会** 防災備蓄品の共同購入、備蓄に関する情報提供
- 福祉保健部会** 要配慮者への災害時支援体制の構築

想定される
関係団体・機関や
部会活動など

自主防災会	各学校関係
防災士クラブ	幼稚園
消防署・消防団	保育園
警察署	福祉保健部会 など



資料編

城坤地区は、山一つない平坦な地形であり、古くから金倉川の水利に恵まれた肥沃な水田地帯として発展してきました。しかし、金倉川は傾斜が急なため、大雨による洪水と日照りによる干ばつの両方の災害が起こりやすいという特徴を持っています。



縄文時代をピークに古代は海面が高く、飛鳥時代には城坤小学校付近が海岸線でした。弥生時代前期（約 2,200 年前）には、金倉町周辺で稲作が始まり、環濠集落が誕生しました。その後、海面の後退に伴い耕地が増加し、作物も綿花から米麦へと変化していきました。

しかし、農民たちは肥沃な土地を手に入れるまでに多くの苦労を重ねてきました。金倉川は洪水のたびに流れが変わり、堤防が破壊されることが度々ありました。その度に、農民たちは協力して復旧作業を行い、美田を維持してきました。

特に、金倉町の下新田の耕地整理事業は、その苦労を象徴する出来事です。明治の終わりには、金倉川の氾濫によって砂地の荒れ地となっていました。地元の人々が協力して耕地整理に取り組み、施設園芸も盛んな美田へと生まれ変わりました。その功績は、集落に建てられた記念碑に刻まれています。

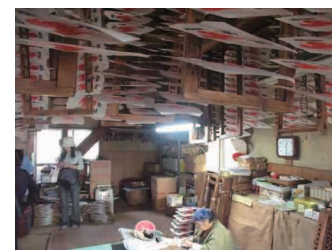
※1
また、昭和 14 年の大旱害では、109 日間雨が降らないという深刻な状況に見舞われましたが、金倉町の辺地では昼夜を問わず五台湧の湧水を汲み上げ、乗り越えました。農地だけでなく、塩田も度々高潮の被害を受けてきました。明治 17 年の高潮では、塩屋、中津、今津まで海水が浸入し、特に塩屋では家が海に浮かんでいるように見えるほどの被害を受けました。農民たちは、耕作している田の上を小舟で移動しなければならない状況でしたが、数年後には復興を遂げました。江戸時代中期などには地球規模の小氷期が頻発し、水不足に苦しめられ、ため池を築造しました。今日の城坤地区の発展は、このような自然災害と闘いながら、困難を乗り越えてきた住民たちの努力の結晶です。

※1 大旱害（だいかんがい）とは、長期間にわたる降水不足（干ばつ）により、農作物や水資源、社会経済活動に極めて深刻な被害が発生する自然災害のことです。

この地区は、古くから農業が生活の中心であったが、江戸時代になると塩屋新田が開かれ、天満池の周辺では「サトウキビ」や「綿」の栽培も盛んであった。明治になると地場産業が盛んとなり、塩屋町では「うちわ」が、今津町では「花かご」が盛んにつくられるようになりました。

丸亀うちわは主に塩屋町でつくられ、昭和 39 年には年間 8 千 7 百万本が生産され全国の 90% を占めるようになりました。その後、急速な電化製品の普及などにより昭和 40 年頃より竹材うちわの生産は急減しました。新たにプラスチックうちわが開発され、祭りやスポーツイベント等で多く使われ、平成 27 年には、年間 1 億 7 千 8 百万本の生産量となりました。

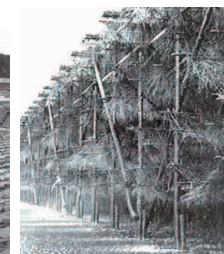
竹材うちわは主に民芸品としてつくられ平成 9 年に国の「伝統的工芸品」として認定されました。



一方、今津町の花かごも、その色彩の美しさが受けて、地域の冠婚祭や玩具などとして盛んに使われました。

一時はアメリカの復活祭（イースター祭り）用として盛んに輸出されるようになっていましたが、昭和 40 年ごろから、安価な輸入品におされて作られなくなりました。

江戸初期（1615 年）赤穂からの移住者により塩屋新田が開墾された。大正 11 年には国の食料施策により渋沢米一も関わった広大な蓬萊塩田が開墾され塩屋町の塩づくりは盛んでありました。戦後、安価な岩塩の輸入が拡大し、昭和 47 年に国の施策により全国の塩田は廃止となり塩屋町の塩田も姿を消しました。蓬萊塩田跡地はゴルフ場、商業地域等に転用されています。



それまで、六郷地区には倉敷紡績、伏見製薬所位の会社しかなかったが、昭和 37 年に中津町に大倉工業本社工場が操業を開始しました。又、平成 21 年に同町に四国計測工業の本社工場の移転がありました。高度成長時代の到来により昭和 42 年から昭和 49 年にかけて中津町沖、塩屋町沖の大規模埋め立て工事が行われ、昭和町、蓬萊町が造成されました。昭和町には昭和 45 年の今治造船が進出、日本電炉（現デンロコーポレーション）、大同ゴム、四国鉄工（現メタルファブリカ）等も進出しました。蓬萊町には昭和 54 年に三菱電機が進出、太陽サカコー、四国オーエム等多くの企業進出もあり多業種の工業団地となっています。令和 2 年、倉敷紡績がこの地で 90 年間続けた操業に幕を閉じました。また、この臨海土地造成に併せて、外国船入港可能な港湾整備が図られ、昭和 50 年には貿易港となり多くの貿易船の入出港があるのです。

これより先、昭和 27 年、讃岐塩屋駅が新設され、昭和 63 年の瀬戸大橋開通（瀬戸大橋線開業）に伴う線路の高架化により、駅は大倉工業の側に移転し、通勤客や近隣住民の利用が中心となりました。昭和 53 年には国道 11 号線と昭和町を結ぶ中津田村線が開通しました。高松からの讃岐浜街道は詫間まで道幅拡張工事等の整備が行われています。

新田町北部の県道多度津・丸亀線バイパス沿いには、郊外型の大型店舗ゆめタウンが開店、少子高齢化が進む中、この近辺には多くの新築家屋の建設が続いています。



昭和 45 年から昭和 48 年にかけて、先代池の約 3 分の 1 が埋め立てられ、丸亀市のスポーツセンターが新田町に建設されることになりました。昭和 48 年には陸上競技場、昭和 49 年にはテニスコート、昭和 50 年には水泳プールが完成しました。昭和 54 年には、市政 80 周年記念事業として隣接する金倉町に体育館も完成しました。



香川県立丸亀競技場



丸亀市民体育館



丸亀市民球場

同時に平池の北側（金倉町）では、硬式野球場や多目的広場（球技場）の建設が進み、丸亀総合運動公園の早期完成が期待されるようになりました。昭和 53 年には、金倉川河口にある万象園の北側に、中津運動公園（軟式野球場）もオープンしました。金倉川河口には中津海水浴場があり、臨時駅も開設されていました。昭和 40 年のことです。

平成 9 年に入ると、平池の南側の国道 11 号線沿い（金倉町）に、県営の競技場（国際大会の開催も可能な第一種公認競技場とその補助競技場）が建設されました。毎年 2 月には、ここを出発・帰着点とする香川丸亀国際ハーフマラソン大会が定着し、シドニーオリンピック女子マラソン優勝者の高橋尚子さんを迎えて、老若男女多数が参加する市民スポーツとなっています。また、プロサッカーチーム「カマタマーレ讃岐」のホームグラウンドにもなりました。

これらの県営・市営の運動施設の周囲には、緑地帯やトリムコースも設けられ、市民の憩いの場、体力づくりの場として活用されています。令和 5 年度には、スケートボード場と多目的広場が新たに建設されました。市営プールは老朽化により廃止され、その跡地には警察署が移転しました。



みなくる広場



中津運動公園

城坤地区内には、市立の城坤小学校、城坤幼稚園、金倉保育所、塩屋保育所、県立の丸亀城西高等学校があります。城坤小学校の卒業生が主に進学する市立西中学校は隣接する城西地区内にありますが、各教育機関は PTA や地域の青少年健全育成団体と連携し、協力関係を築いています。また、中津町の浜街道沿いには国立の丸亀少女の家（女子少年院）があります。



城坤コミュニティセンター



香川県立丸亀城西高等学校



丸亀市立西中学校



丸亀市立城坤小学校



丸亀市立城坤幼稚園



しおや保育所



丸亀市立金倉保育所



国立丸亀少女の家

城坤地区には、地域住民の安全を守るために、丸亀市消防団の第四分団屯所と第五分団屯所が配置されています。これらの屯所は、地域住民のボランティアである消防団員によって運営されており、日夜、地域の安全のために活動しています。



丸亀市消防団 第四分団屯所

地域における火災予防や初期消火活動の拠点として機能しています。地域住民への防災意識の啓発活動も行っています。



丸亀市消防団 第五分団屯所

こちらも同様に、地域の安全確保に重要な役割を果たしています。特に、金倉川周辺地域における水害対策にも力を入れています。

津森天神社



津森町の氏神、津森天神社は、平安時代の歴史書「三代実録」にも記された古い神社で、元々は加治須神（梶洲神）と呼ばれ、現在の場所より少し北東に位置していました。江戸時代初期に現在の場所に移転しました。中世以前、神社の西側は海が深く湾入し港があり、八のつく日には市が開かれこの港に荷揚げされた地方の物産や近在の人々の持ち寄った農作物、農具、日用品などが交換、売買されていました。

中津八幡神社



道隆寺温古記によると、中津町の八幡神社は 11 世紀創建。金倉合戦で敗れた中津将監為忠の子、遠山甚太夫が一時、徳島県に逃れていましたが、後に戻ったときに再建したと伝わっています。金倉町の円龍寺は、金倉合戦で戦死した為忠のため、弟の顕久が建立。

西隣の西教寺は、金倉為忠が祖先の供養のために建てた寺とされています。

金倉八十主神社



金倉町の氏神、八十主（やそすか）神社は、円珍（知証大師）が金倉町の池ノ下に創建したのに始まると伝えられる古社です。この神社で毎年二月に行われる百々手（ももて）の神事は、江戸時代から伝わる伝統行事です。明治の初めの神仏分離のとき、八十主神社境内の観音堂に祀られていた聖観音菩薩立像は、一時放置されていましたが、今は光明寺の観音堂に移されて祀られています。

天満天神社



天満町の天満天神社は、道隆寺温古記によると、江戸時代の初めに塩屋浜天神が再建された神社です。同地区にあった塩釜神社、小天神、保食神社を合祀した三社神社並びに春日大社が境内に合祀されています。

正宗寺



前塩屋町の正宗寺（しょうしゅうじ）は、權掘（かいほり）の寺ともいわれ、法然上人が讃岐に流罪になったとき、塩飽本島の小阪から舟出して上陸し一時滞在した寺です。

西本願寺塩屋別院



江戸時代（1615 年）のはじめ、兵庫県の赤穂から移住して来た 28 人と共に教法寺が移って来て、教法寺道場を開きました。1734 年西本願寺の四州教区の中心とすべく同地に西本願寺塩屋別院を建立しました。塩屋別院の門前には真相寺があります。教覚寺（役寺）もありましたが廃寺となっています。ロシア兵やドイツ兵の俘虜収容所になったことでも知られる寺です。新浜町にある遍照寺は幕末の志士達が滞在したと言われています。

金倉町にある円龍寺、西教寺、光明寺、念宗寺、東坊の五か寺では、毎年四月の花祭りに、子どもたちが、象（はりこ）を引っ張って長い行列をつくり、町内を回って釈迦の誕生日を祝っています。



円龍寺



西教寺



光明寺



念宗寺



東坊

津森町にある光善寺は、戦国時代の聖通寺城主奈良元信の弟光善が、信仰の道に入って津森町に庵（こほとけという）を設けて修行したことに由来する寺です。

中津町にある徳行寺には、本島沖で漁をした漁師が拾いあげた親鸞上人の像が祭られています。



光善寺



徳行寺



この地区の獅子舞は、すべてユタン（着物）をつけた一頭獅子であるが、中津町川西若連中の獅子と中津町中新の獅子は、もとは二頭獅子（夫婦獅子）であったといわれています。また、今津町西の獅子舞や中津町下ノ村の獅子舞などは、戦後まで太鼓や鉦（かね）にあわせて笛も共演されていました。

獅子舞の流派は、大別して「五段くずし」と「みたち流」の二つに分けられますが、一般に段くずしは、早いリズムの鉦や太鼓に合わせて勇壮に舞い、みたち流は動作が比較的静かで、お座敷獅子ともいわれます。

一般に獅子舞の動作は、「手負いの獅子が草を探して食べながら山から下りて来て、元気を取り戻す動作をするので、頭は地面をはい、後脚は高くしています。

八十主神社の荒組の獅子、津森天神社の津森組の獅子、天満天神社の塩屋西若小獅子組の獅子の三組の獅子は、早いリズムの鉦と太鼓に合わせて勇壮に舞う五段くずしです。

中津八幡神社の川西若連中の獅子は、雄獅子らしく勇壮に舞うが、中新の獅子は雌獅子らしく静かに舞います。最近、この二頭の獅子は昔に戻り、八幡神社の神輿が金倉川に入る（水神輿という）と、川の中に設けられた舞台の上で夫婦獅子となって共演しました。なお、下ノ村の獅子は川西若連中の獅子舞が伝わったものだといわれています。

八十主神社の秋祭りには、上新田・中の池・原・荒・川西・下新田の獅子舞が共演します。中の池の獅子舞は若い獅子の様子を表現し、川西の獅子舞の太鼓の動作は獅子に戯れるような仕草をするのが特徴です。

天満天神社の獅子舞は、塩屋西若小獅子組・塩屋東旭若大獅子組・新浜組の三組あるが、塩屋東旭若大獅子組の獅子は、おとなしいお座敷獅子で、田村上里（あがり）の獅子舞と同じく、多度津町白方見立の獅子舞の流れをくむものです。

新浜町の獅子舞は、新浜に塩田が開かれた百年ぐらい前から伝わるものであるといわれています。

津森天神社の秋祭りに共演する獅子舞は、今津東・今津西・津森・津森南の四組です。

今津東組の太鼓には「仁尾」と書かれた銘があります。三豊市仁尾町から購入したものでしょう。津森南組の獅子舞は、津森組の獅子が二頭あったので、そのうちの一頭が戦後に分かれたものですが、流儀は津森獅子舞とは違ってしています。



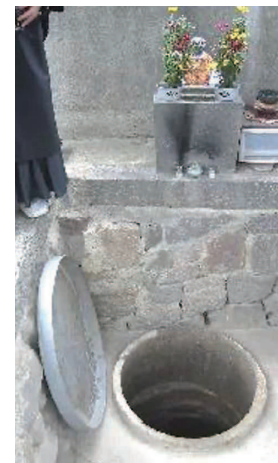
八十主神社の秋まつり

由来は、はっきりしませんが、南海治乱記によると、生駒一正は村人が氏神の前で、百々手の的を射たり、やぶさめ（馬を走らせ、馬上からのめがけて矢を射る行事）をしたりすることを許したと書かれていますので、そのころから伝わる行事かもしれません。



前塩屋町にある正宗寺（しょうしゅうじ）は、都を追われた法然上人（円光大師）が、本島の小阪から舟出して、この塩屋浜に上陸した遺跡です。

清水がほしくなった上人は、乗ってきた舟の櫂（かい）で砂浜を掘り、湧き水を探し当てたので、ここを今も權掘（かいほり）といっています。この湧き水は、「權掘の井戸」といわれ、今のように潮止堰がなかったころ、海水がここまで押し寄せても、海水が引けばすぐ元の清水に戻る井戸でありました。



古今讃岐名勝図会



塩屋別院の本堂



ドイツ兵俘虜たちの合奏練習



本堂前のドイツ兵俘虜

日露戦争が終わった後の明治38年10月31日、六郷（城坤）小学校の秋の大運動会には、ロシア兵の俘虜が招待されています。

ドイツ兵の俘虜たちは、バイオリンやギター、マンドリンを弾き、ベートーベンの交響曲「第九」を、合唱ついで練習していたといわれています。

金倉川の川口にあるのが中津万象園で、昔は「中州のお茶どころ」といい、貞享5年（1688）丸亀二代藩主京極高豊が造った別荘です。

園内の中心には、京極家祖父の地である近江の琵琶湖の形をした八景池があり、その中に八つの島があって、橋でつながっています。茶どころも三つありましたが、現在は、京極高朗が茶会を開いたり、詩をつくっていた茶所だけが残っています。



改修前の中津万象園



現在の中津万象園

06 光明寺の聖観音立像

高さ七十五センチの木造の聖観世音菩薩で、神仏分離までは、八十神社の観音堂に祀られていました。女の姿をした、やさしい顔の観音さんで、江戸時代の作と思われますが、作者は不明です。



07 中の池弥生遺跡



昭和 51 年に、初めて発掘された弥生時代前期の遺跡で、集落を囲んでいたと思われる三本の溝や竪穴式住居の柱穴、いろいろの跡などが発見されました。また、溝の跡からは、石器や土器、いのししの骨、炭化米なども出土しているので、ここで稲作が始まったと考えられますが、その後、金倉川の氾濫で消滅したのではないかと考えられています。

08 かりていしゃみち・こんぴら道標



金倉町の川西公民館に、「かりていしゃみち（珂利帝社道）」の道標と石造の「金毘羅燈籠」が移されています。

「かていしゃみちの道標」は、金蔵寺の境内にある珂利帝堂（鬼子母神を祀っている）へ行く道標で、すぐ南の伊予道とかりていしゃみちの分岐点に立っていました。江戸時代はここに京極藩主の別荘「上金倉別館」があり、別館の庭には小川が流れ、源氏ホタルが飛び交っていました。

京極高朗公は、よくここを訪れ、金倉川に舟を浮かべて漢詩を詠んだといわれています。

また、金毘羅燈籠は、このかりていしゃみちの道標の立っていた地点より少し西の伊予街道筋に建っていたもので、文化 7 年（1810）の建立です。

この伊予街道は丸亀湊から中府三軒家へ向かい、ここで金毘羅街道と東西に分かれて西へ進み、金倉川を渡って善通寺市の永井へ出た江戸時代の主要街道でありました。小林一茶、与謝蕪村などの有名な文化人をはじめ、多くの有名人も通った道です。



09 津森位（くらい）遺跡



平成 19 年、21 年の二回にわたり、県道多度津丸亀線の道路新設工事にあたって、県立丸亀城西高等学校の敷地内および、隣接するすぐ東側を発掘調査したとき発見された遺跡で、弥生時代後期から江戸にわたる遺跡です。

旧河口にはさまれた中州（微高地）で、弥生時代後期には耕地化されていたようですが、それ以後は低湿地となり、あまり利用されなくなっていたと思われます。

条里制の地割が見られることから、奈良・平安時代ごろには近接する田村廃寺と密接に関わりながら、地域の中心的な集落として機能していたと考えられています。この地域では、古代の条里制に関連する溝などが発掘されており、長年にわたる歴史の変遷が確認されています。また、古代から中世にかけての住居跡の柱穴（竪穴建物跡）も見られることから、この場所は長期間にわたって人々が生活していた集落跡であることがわかります。丸亀平野における古代寺院として、こうした周辺の集落と一体となって、古代讃岐の歴史を考える上で非常に重要な遺跡です。



奈良時代（1,200 年前）
「八葉複弁蓮華文軒丸瓦」



奈良時代（1,200 年前）



壺の埋没状況



鎌倉時代（600 年前）
「杯」

ふれあい城坤 まちづくり計画策定委員

(順不同・敬称略)

氏 名	所属・役職等
塩田 康広	ふれあい城坤 会長・連合自治会 会長
池内 右典	ふれあい城坤 副会長
木下 弘樹	ふれあい城坤 副会長
塚本 詩乃	ふれあい城坤 副会長・総務部会 部会長
萩野 亜希	ふれあい城坤 副会長・健全育成部会 部会長
遠山 光信	ふれあい城坤 事務局長
勝田 光	ふれあい城坤 監事
大池 正二	ふれあい城坤 監事
神原 知一	ふれあい城坤 幹事
池田三津子	ふれあい城坤 幹事
芥 典子	ふれあい城坤 幹事
樋口 倫	ふれあい城坤 幹事・丸亀市立西中学校長
三名本智美	ふれあい城坤 幹事・丸亀市立城坤小学校長
三木 真弓	ふれあい城坤 幹事
藤田 秀光	ふれあい城坤 福祉保健部会 部会長
森 博	ふれあい城坤 環境生活部会 部会長
松浦 和典	ふれあい城坤 体育部会 部会長
満尾 晶子	丸亀市人権課男女共同参画室 室長
岡村 捷大	丸亀市デジタル活用推進課
田村 直樹	丸亀市デジタル活用推進課
福田 悠	丸亀市健康課 保健担当保健師
佐々木茂樹 (データ収集)	「六郷の里 まちづくり計画」製作委員
藤田千代子 (全体校正)	「六郷の里 まちづくり計画」製作委員
谷河 孝明 (全体校正)	「六郷の里 まちづくり計画」製作委員
直井 敏彦 (史跡文校正)	「六郷の里 まちづくり計画」製作委員
林 隆子 (高齢者・文書検証)	「六郷の里 まちづくり計画」製作委員
西山 孝 (写真提供)	「六郷の里 まちづくり計画」製作委員
塚本 一也 (デザイン構成)	「六郷の里 まちづくり計画」製作委員
三宅 真弓 (ダイジェスト版監修)	丸亀市市議会議員